

九、太祖神社の狛犬こまいぬ

初詣などで神社に参拝に行くと、二匹の狛犬が互いに向き合っているのを見ますが、さて、この狛犬とはいったい何なのでしょう？

狛犬の元を辿ればライオンです。そう言ってしまう身も蓋もなくなってしまうますが、では何故ライオンなのでしょう？

ライオンは昔からその力強さや風貌から守護神として崇められていました。エジプトのピラミッドの前に堂々と座っている二頭のスフィンクスをみなさんは良くご存じだと思います。中国では「空想上の霊獣」で陵墓の守護獣として悪霊や邪気を追い払うために、獅子が前面に置かれます。また仏を守護する獣としても考えられています。日本では法隆寺の金堂壁画にもあるように、飛鳥時代の頃から獅子の図柄が登場します。

ります。今度神社に行った時によく観察してみてもいいがですか。個々様相が違っているのがよくわかると思っています。

参考文献

『日本の美術 第二七九号 狛犬』(至文堂)一九八九

篠栗町歴史民俗資料室

それでは、狛犬と言われ始めたのはいつの事からでしょうか？平安時代初期の舞楽に関する資料に「狛犬」の名が登場しています。

鎌倉時代になると、中国大陸から宋風の狛犬が北部九州一带に現れてきます。このことは、当時北部九州が、中国大陸文化の入口であったことを示唆しています。宗像大社や太宰府市の観世音寺にも石造の宋風狛犬がありますが、篠栗町の太祖神社に伝わる石造狛犬もいわゆる宋風の狛犬で、中国の工人が作ったか、もしくはそれを真似たものかと考えられます。

台座を含めても像高が五十センチも満たない阿形子あぎょう持・吽形玉取りうんぎょうの一对の獅子像(写真)は、軟らかい曲線で全体が表現されており、小首をかしげたユーモラスな格好をしています。その芸術的な美しさと技法から福岡県指定の有形文化財(彫刻)に選定されています。現在は保存のために九州歴史資料館にて収蔵・展示されています。

町内にはいろいろな形や材質の狛犬が各神社にあ

